# erudio 10

国立大学法人 岩手大学 大学教育総合センター通信 2009.3

Iwate University: University Education Center

# Contents-

ごあいさつ	02
運営委員会	03
全学共通教育の理念と教育目標…	04
入試部門	05
全学共通教育企画:実施部門	06
教育評価·改善部門······	08
専門教育関係連絡調整部門	10
学生生活支援部門	
キャリア支援部門	
現代GP関連······	13
全学共通教育授業実施報告	14
放送大学プロジェクト&コンソーシアム・	16
アイアシスタント	
委員会及部門会議名簿	18

# センター長より

# 玉 真之介

#### ■悪戦苦闘

英語に費やした金、時間、苦労を思えば大丈夫と思い、3年前から農学部・鈴木忠彦先生と共通教育の英語を担当し始めました。インターネット時代は読解力と、『Atlas of Sustainable Development』をテキストに、ESDの学生参加型授業に挑戦しました。学生を5人ずつ8チームに分け、リーダー、単語解説、フレーズ解説、図表解説を分担させて、毎回2チームに発表をさせます。

学生には3回発表が回りますが、教室外学習が不十分とわかり、2年目からiカードを使って、毎回和訳の宿題を出しました。繰り返さないと知識は定着しないとわかり、3年目は宿題をその日の授業から出すようにして、授業に集中させるようにしました。

3年目の大きな改善は、アイアシスタント「グループ板」 の活用です。分担して、あとは「出たとこ勝負」を改善 するため、「グループ板」で担当部分の情報を共有する ように指導しました。前日の夕方から深夜にかけて多い ときは20数回書き込みが続きます。

# ■「何ができるようになるか」

いろいろ改善してきましたが、3年目で不安となってきました。中教審答申が言う「何を教えるか」ではなく「何ができるようになるか」に視点を変えると、持続可能性に関する知識やボキャブラリーはともかく、本当に読解力は向上しているのだろうか。それは入学時と授業終了後のTOFELの点数を付き合わせみなければなりません。

もし点数の増加がないとすると、それはやはり教え方の問題となります。学生の受講態度の問題もありますが、学生に意欲を持たせることも教え方の一部といえます。これはやはり英語の専門家に任せた方が良いかもしれません。

そんな気持ちもありますが、もう1年頑張ってみることにしました。読解力の向上という視点をより強く持って、学生の発表準備と宿題という教室外学習をもっとしっかり指導してみたいと思います。この授業が自分自身の英語力維持に貢献していますから。

# 副センター長より

# 佐藤 瀏

### ■「大学で学ぶこと」-初年次教育の充実-

昨年末ウインターセッションに招かれて県内の高校生 に話す機会を得ました。演題は「大学で学ぶこと」でした。

ところで、実際に大学では学生に何を教えているのでしょうか。各学部でそれぞれの専門科目を教え、知識を与えるだけに終始していないか。学生の未来に向けて、その生き方を支援するような内容を教え、もしくは役立つ指針を与えているのでしょうか。いろいろ考えさせられます。

大学全入時代を迎え、さらには入学者選抜方法の多様化それとあいまって、大学乱立の時代を迎え入学する学生も多岐に渡り、その求めるところも多様です。学生が大学に入学し何を学ぶかの目的もまた複雑にしかも多様に変化しています。本来大学に入学する際には、十分な情報に基づいて、学部、学科あるいはコースを選択して入学するので、以前よりもむしろ入学の目的や目標が明確に定まっているはずです。しかしいろいろの問題から時には進路変更に伴う退学、目的意識の喪失等々必ずしも入学後の大学教育に満足できない学生が出現しているのも事実です。

中教審答申に盛り込まれた「学士課程教育の充実」 はその辺りの事情を反映しています。それぞれの大学 が個々の学生の学士力を高めるためにどのように対応 するのかが試されています。すなわち、入学した学生が 卒業する際にどれほどの満足感と充実感を感じること が出来るかが、ひとつの重要な指標となります。

全学共通教育科目に関しては、1年次に開講されている「基礎ゼミ」は導入教育の柱と位置づけるのもこのような事情によるものであり、この点については大多数の教員の考えは一致していると思われます。「基礎ゼミ」の役割はますます重要になっています。大学教育総合センターはこれらの導入教育の更なる充実と実効性を高めるために「発展ゼミ」(仮)開設を提案しています。「学士課程の充実」のための取り組みの一翼を担うものであり、構成員の十分な理解を得て開設したいと考えています。

# 運営委員会

# 運営委員会

#### センター長 玉 真之介

平成20年度後期の運営委員会は、①副専攻制度、 ②学年歴及び授業時間帯の見直し、③第二期中期目標・ 中期計画などを中心に審議を行ってきました。

#### ■副専攻制度

副専攻制度の発端は、平成18年度に合意された「全 学共通教育の充実・発展に向けて:改革実施案」です。 そこでは、第1期中期目標・中期計画にある「教養教育 と専門教育の有機的連携」という課題に応える方策と して、「教養教育と専門教育とをつなぐ全学的な副専攻 の整備」を提起していました。明確な関連性を欠いてい る教養教育と専門教育を、両者を含んだ授業科目のパッケージを副専攻としてまとめることで有機的な連携を 与えようとするものです。

これは、平成19年度後期の運営委員会でかなり突っ 込んだ議論がなされ、共通教育の単位と専門教育の単 位を組み合わせた原案が提示されました。ただし、副専 攻制度になじみのない教員も多いという現状を踏まえ、 10月の運営委員会で副専攻制度研究会を立ち上げて、 もう少し時間をかけて検討することが決まりました。現在、 人文社会科学部井上博夫教授を代表に、検討が進め られています。

#### ■学年歴及び授業時間帯の見直し

いわて高等教育コンソーシアムの発足を1つのきっかけとして、学年歴と授業時間帯の見直しを10月の運営委員会に提案しました。ポイントは、入学式後の授業開始と休み時間の10分への短縮です。11月の運営委員会では、学生の移動時間から休み時間短縮は無理と判断し、学年歴変更に絞って学部での検討をお願いしました。

学年暦については、4月第1週の専門授業は休講が 多いこと、編入生が受講できないことなどから賛同する 意見が多く出されました。ただし、議論となったのは、試 験期間を設けないことと教室の確保などの試験実施上の措置でした。これに対しては、特別措置の希望を事前に把握し、調整に万全を期すことを条件に、12月、1月の議論を経て、変更が認められました。あわせて、アイアシスタントでの履修申告により、申告期間をこれまでの1日から2週間に延長することも決まりました。

#### ■第二期中期目標·中期計画

運営委員会では、10月から第二期中期目標・中期計画について議題に取り上げました。12月に出された中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」の重要性から、その内容の確認も行いました。2月の運営委員会では、かなり時間を取って議論しています。そこでの1つの焦点は、「質保証のためのシステムの再構築」という課題についてです。これまで各授業科目、各教員に委ねられていた質保証を、体系性あるカリキュラムを備えた教育プログラムとして組織的に行うにはどのようにするかという問題です。

そこで議論となっているのが、GPA制度です。ただし、GPA自体は、成績の数値化により成績の平均値を出したものであり、問題はその利用の仕方ということになります。この議論をする際に一番重要なのは、学生の自主的な学びをいかに引き出し、伸ばすのかという視点です。その意味で、学生自身が目標を持ち、自ら自己評価して、自らの学びをマネジメントしていく「学習ポートフォリオ」と組み合わせて考えることが提案されています。ただし、「学習ポートフォリオ」自体がなじみのない言葉であり、内容の共通理解に時間を必要とすることから、継続した議論が必要となっています。



# 全学共通教育の理念と教育目標

### 一理 念一

岩手大学は、各学部が行う専門教育とならんで、所属する学部にかかわらず全学生が共通に受けるべき教育として全学共通教育を設け、「基礎的な知識の習得を求め、多様な領域に対する学問的関心を喚起するとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」ことをその理念としています。

この理念を実現するために、全学共通教育は岩手大学の全ての教職員の関心・責任・協力のもとに実施されています。

#### =教育目標=

全学共通教育科目は、「転換教育科目」、「共通基礎科目」及び「教養科目」によって構成され、それぞれの教育目標を設定して全学共通教育の理念の具体化を図っています。また、この三つの区分の下に、それぞれに対応する授業科目群を設けて、より具体的な教育目標を明示しています。

さらに、教育目標の達成に当たっては、国連「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development: ESD) の10年 | (注)を共通に意識することに努めています。

(注)2002年にヨハネスブルク(南アフリカ共和国)で開催された「持続可能な開発のための世界首脳会議」(ヨハネスブルク・サミット)で日本が提案して決議に盛り込まれ、同年の国連総会においても日本の提案で採択されて、2005年から開始されている世界的な教育キャンペーン。

### 1. 転換教育科目の教育目標

転換教育科目は、全学共通教育へのイントロダクション、専門教育へのイントロダクション、そして大学生活へのイントロダクションの三つを役割とする科目です。転換教育科目は、大学での新たな学びについて、少人数のクラスで学生が互いに学び合うことを目指しています。また、大学での学びを社会生活への第一歩と意識して、そこでのルールやモラルも合わせて学ぶことも目標の1つです。

#### 2. 共通基礎科目の教育目標

共通基礎科目は、学生が在学中に教養科目と専門教育科目の学業を進めるうえで、また卒業後の社会 生活を進めるうえで共通に必要な基本的技能やその基礎となる知識を全学生に習得させることを教育目標 とする科目です。授業科目は、「外国語科目」、「健康スポーツ科目」および「情報科目」に区分されます。

#### 3.教養科目の教育目標

教養科目の教育目標は、特に上記の全学共通教育の理念における「幅広い教養」、「深い教養」及び「総合的な判断力」という3項目に基づいて、次のように設定されています。

- ①さまざまな学問分野の「ものの見方・考え方」や知識を幅広く習得することにより、自分自身の専門分野の仕事の全体的な意味や役割を知り、その専門的な知識を生かすことのできるような幅広い教養を自ら培うことへの教育的支援。
- ②あらゆる分野の日常生活の営みの基盤になっている各種の常識・通念を根底的に深く問い直すことができるという意味での、深い「ものの見方・考え方」や知識を習得することにより、自然との関係においても人間との関係においても、創造的・個性的に生きるうえで必要な深い教養を自ら培うことへの教育的支援。
- ③多角的な「ものの見方・考え方」や学際的な知識を習得することにより、激しく変動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような総合的な判断力を自ら培うことへの教育的支援。
  - 以上のような教育目標の達成をめざす教養科目は、「人間と文化」、「人間と社会」、「人間と自然」、「総合科目」、「高年次課題科目」及び「環境教育科目」に区分されます。

#### 専任教員 永野 拓矢

3年目を迎えた入試部門は、約300校の高校訪問や 本学単独による説明会実施(県内中心に7会場)など、 昨年以上に積極的なPR活動を行いました。一般入試 の志願状況ではこうした全学体制による積極的な広報 活動に加え、各学部教員による高校訪問や出前講義 等の成果が結果として反映され、センター試験が難化 して、昨年とは一転して「手堅い出願」になったにもか かわらず、本学への出願は幸いにも昨年以上の志願 数となりました(一般入試志願総数は3,413名で昨年よ り382名増)。特に後期日程での増加が著しく(485名増)、 東北圏内では比較的難易度が高い本学ですが、旧帝 大など難関大学の"押さえ"として(これもひとつの「受験 生からの評価」と解釈しています)、学力層の高い受験 生が増加しました(表)。前期日程の減少(93名)の要 因は、全国より多数の志願が集中する農学部獣医学 課程でセンター難化による志願者の大幅減(76名減) によるもので、大きな懸念材料に至っていません。

今年度の試験会場は従来の東京会場を大宮に変更し北関東・北信越地方の受験生に便宜を図りました。また2年目となった札幌会場では北海道の受験生に「道内で受験できる」ことの認知度が高まり67名の増加となりました(対前年150%増)。

#### 表 平成21年度 岩手大学志願者

#### 【前期日程】

学 部	募集人数	志願者	倍 率				
人文社会科学	115 (120)	273 (295)	2.4 (2.6)				
教育	136 (152)	468 (474)	3.4 (3.1)				
エ	250 (270)	504 (484)	2.0 (1.8)				
農	146 (141)	387 (472)	2.7 (3.3)				
計	647 (678)	1,632 (1,725)	2.5 (2.5)				

#### 【後期日程】

学 部	募集人数	志願者	倍 率
人文社会科学	50 (50)	474 (248)	9.5 (5.0)
教育	57 (52)	487 (435)	8.5 (8.4)
I	62 (65)	617 (359)	10.0 (5.5)
農	33 (37)	203 (264)	6.2 (7.1)
計	203 (204)	1,781 (1,306)	8.8 (6.4)

今年度の主な活動は以下の通りです。

- 1.高校・予備校へのPR訪問
- 2.高校生対象の大学説明会、相談会の実施
- 3.AO入試の実施と運営
- 4.広報媒体の活用(北海道のラジオ番組に出演)

1~3は昨年実施を踏襲し、更なる充実を図りました。新規企画として4.「北海道のラジオ番組に出演」を実施しました(写真はラジオ局スタジオにて)。聴取率の一番高い道内民放ラジオの人気番組に「7·10·12月の毎週金曜日ひる」の5分間に藤井学長、玉副学長をはじめ各学部の教員および学生の8名が札幌のスタジオ、あるいは盛岡から電話にてそれぞれ生主演し、岩手大学を存分にアピールしました。昼の時間帯ですから受験生は聴いていませんが(笑)、その保護者にあたる「4~50歳代が最も多く聴いている」番組であるため、その子どもに伝わる間接的効果を期待しました。

北海道は本学が募集戦略に重点化している地域です。こうした電波を使った広報や、高校訪問活動および出前講義。さらに高校生向けの進路講演会など、積極的広報が実を結び、北海道出身者の志願が急増したと分析しています。



今回の志願増加は「本学の広報効果」とありがたく 認識する一方で、不況による一時的な「浪人回避の安 全策 | として志願者が流入した、とも分析しています。 以上から慢心することなく、新年度も高校訪問や説明 会などの広報活動を展開していきます。前述の通り、本 学は受験データによれば東北の大学では難易度が比 較的高い位置にあるために、他府県からの急激な流入 は期待できません。まずは岩手に重点を置き、地元高校 の信頼を頂いた上で、遠方に出かけて行きたいと考え ます。年に一度の訪問でも毎年面会される先生も多く、 「岩手大学のことをしっかり生徒に伝えていますよ」と笑 顔で語っていただける先生も増えてまいりました。何事 も「継続は力」と感じます。大学にとって「高校訪問」は 民間企業では「営業」に相当します。今後も粘り強く、 そして"謙虚さ"を忘れずに訪問を続けて行きたいと考え ています。

# 全学共通教育企画·実施部門

### 部門長 佐藤 瀏

#### ■学年暦の変更

本学ではこれまで、新年度毎の授業開始を4月1日としてきた。一方、本学の入学式は4月7日である。この時間的ずれが問題であった。たとえば、高専や短期大学等からの編入生は入学式後の受講となるので、初回の授業は欠席せざるを得ず極めて不公平である。そこでこの問題を解決するため、授業開始を4月10日とする学年暦の変更を提案した。大学の多忙化の中、一週間程度の学年暦の変更といえども、授業回数を15回確保することは容易ではないが、試験期間を特別に設定しないことによってこの問題を解決して、全学に諮り了承を得た。

その結果、平成21年度は4月10日授業開始となる。

#### ■総合科目の維持

総合科目は学問分野によらずに、学生が幅広く知識 を習得できるようにと、分科会に属さず、いわば学部横 断的に開設した科目である。したがってオムニバス方式 の授業になっている。総合科目はかなりの数の先生方の献身的な協力がなければ、維持できない。特に複数の担当教員の退職時などはその維持は並大抵の事ではない。幸いにも全学的見地から多数の教員の皆さんに担当とコーディネーターを引き受けていただき、21年度は新規開講科目も含め、一層の充実が図られることとなった。

#### ■発展ゼミ(仮)の開設の検討

「基礎ゼミ」の重要性が増し、その充実が求められていることは周知のことである。大学教育総合センタでは基礎ゼミの更なる充実を図る目的で、新たに1年次後期科目として「発展ゼミ」(仮)の開講を提案している。ただし、「発展ゼミ」(仮)に関してはその目的や意義が十分に理解されていないという段階であり、今後さらに理解が得られるように検討を続けることになっている。



#### 分科会におけるFD活動報告(外国語分科会)

#### 第8回 山形大学教養教育FD合宿セミナーに参加して

川本 栄三郎(人文社会科学部専任担当)

私の感想を述べるよりも、講師の先生が示してくれた「私の授業法」を以下に記載しますので、自分の授業法と比較してみてください。いずれにしても、この合宿セミナーには5年に一回は出てみたほうがよいと思った。

- (1) ガイダンスのしかた:(必ずワンペーパー作って渡す―最初の3週間で徹底)
- (2)授業の組み立て方: (90分を3つのパートに分ける一話の構造化) (時間の使い方を予告し守る一全体像を見せること) (つかみが大切一冒頭にカを入れる)
- (3) 効果的な表現技術: (言語表現の工夫―例示の多用、つなぎ言葉の活用、ゆっくり間をとって話すこと、用語の選択と位置づけ) (非言語表現の効果―身体表現、対人距離、机間巡視、表情は笑顔が基本、アイコンタクトによるプレッシャーと激励)
- (4) 資料配布と板書: (教科書の使い方) (レジュメの効果―情報を与えすぎないこと) (板書は最高のビジュアル)
- (5)双方向の確保: (発問のしかた―大切なのはリズムと二者択一の質問) (紙ベースでのやりとり―レスポンスカード)
- (6)評価のしかた:(合わせ技―出席、小テスト、プレゼン)(主観と客観のバランス―学生が納得できる基準を明示)(個人情報確保と説明責任―授業期間と終了後で区別)

私の場合どれだけできているであろうか。外国語の授業と学習には、自己表現の意欲を引き出すことなど、ほかにももっと必要なものがあると思われる。私の中国語の授業では、日本語の発想で考えることを基本にし、予習、復習のしかたや試験の時には試験勉強のしかたまで、まさに「手取り足取り」して教えている。あまり教えすぎるのではないか。

# 全学共通教育企画·実施部門

# erudio10

#### ■平成21年度新規開講科目

平成21年度に次の4科目が新たに全学共通教育科目として開講されることになった。このうち2科目は環境教育に関する科目であり、他の2科目はいずれも高年次課題科目として開講される。高年次課題科目については過渡的措置として平成21年度以前の入学者も受講可能とした。

#### 平成21年度 新規開講科目一覧

区分	科目名	担当者名
環境教育科目	人の暮らしと生物環境	小田伸一 外
総合科目	岩手大学の環境マネジメント	福永良浩 外
高年次課題科目	環境都市盛岡づくりプロジェクト	井上博夫
高年次課題科目	社会のなかの法律問題を考える	宮本ともみ



#### 分科会におけるFD活動報告(生物の世界分科会)

#### 「学びの転換」と言語・思考・表現に参加して

#### 髙橋 壽太郎(農学部専任担当)

平成20年10月31日に東北大学高等教育開発推進センター主催で開催された『「学びの転換」と言語・思想・表現』という「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)東北大学国際シンポジウム」にFD活動の一環として参加しました。各大学から50名程度の参加者がありました。今年は特色GPの最終年ということで、国語教育の重要性について、4名のパネラーの講演がありました。これをごく簡単に纏めると次のようになります。

#### (1)大学における学びの変容と言葉の教育(京都精華大学人文学部 筒井洋一先生)

大学における教養部の廃止、大学全入時代のような大学の変容の中で、言語としての国語教育の高校と大学での分担が不鮮明になっており、国語教育においても入試の制度を見直し、高校と大学の「共通の目標で大学への橋渡し」が必要である。

#### (2)韓国の教育政策(1945年以降)と大学における国語教育(韓国誠信女子大学校文学部 アンビョンホ先生)

1948年からのハングル専用政策が実施されてから漢文(漢字)教育は別の科目として教えられるのが一般的である。漢字で自分の氏名を書けない大学生も出て来ている。ハングルのみで漢字を入れないと不便な面もあるが、漢字修得の時間を他の科目に当てる利点もある。韓国でも若者による言葉の乱れがみられ、50年後には世代間で意思疎通が出来ないくらいに言葉が変化する可能性があり、言語のスキル教育が弱まっている点においては日本の状況と共通性があるのではないか。

#### (3)学びの原点に立つ;Freshman seminarが提供するもの(スタンフォード大学アジア言語学科 松本善子先生)

スタンフォード大学では10年程前から新入学生に対して初期ゼミを課しており、教員も学生も講義並びに受講の義務は無いが、75%の学生が自主的に受講している。学びの原点に立つことを目的としていて、「自己の考えを明確に表現出来るか」を主題として、自分で考えるテーマを与えて、書いたり、話をしたりする機会を与えて表現力を高めるようにする。そのためには、少人数のクラスでゼミを行い、議論し、考えて、表現する機会を与える。最終的には500語程度レポートを書かせると同時に5分位のプレゼンテーションを課している。

#### (4)強制教育から自立的学習へ(東洋大学文学部 Charles Cabell先生)

パネラーの高校時代の学校教育のなかでの学習経験から、強制教育の功罪について論じている。強制教育論と自立的学習論を展開し、大学における言語教育については、積極的で自立した学習者になるような教育方法、行動を伴った体験学習が必要である。

以上、このシンポジウムに参加して、大学における「転換教育」の重要性と、 初期ゼミの工夫が大切である事、さらに外国語教育、とりわけコミュニケーション 英語教育の重要性もさることながら、小、中、高、大学を通しての一貫した国語 教育の充実が求められていることをあらためて感じました。



# 教育評価·改善部門

## 専任教員 江本 理恵

### ■全学共通教育授業公開

平成20年11月10日~11月14日の間、全学共通教育のすべての授業と農学部の一部の授業を公開する「授業公開」を行いました。

今回も保護者の方々に授業モニターになっていただき、 大学の授業に対する率直なご意見をお伺いしました。

この授業公開と保護者による授業モニター制度は全 国的にも珍しい取り組みで、期間中に読売新聞より取材 を受け、以下のような記事として掲載されました。



#### ■講演会・研究会等の開催

教育評価・改善部門では、大学教育に関する社会的な動向や新しい授業方法等についての知見を深めるために、年に複数回の研究会や講演会を実施しています。平成20年度後期には右のような研究会・講演会を実施しました。今後も、様々な研究会・講演会を企画しますので、積極的な参加をお待ちしております。

- ○授業応答システム「クリッカー」
  - 北海道大学におけるクリッカーの有効な利用法― 北海道大学大学院 教授 鈴木 久男氏
- ○教員職能開発(FD)から大学教育開発(ED)へ
  - FDをめぐる7つの誤解と課題 —

東北大学 教授 羽田 貴史氏 ※人文社会科学部総合的FD委員会と共催

- ○企業の求める人材と大学教育への期待
  - 一 企業経営の立場からの期待 一

セイコーインスツル(株)常勤監査役 鎌田 國雄 氏

- 岩手大学OBの立場からの期待 -

盛岡セイコー工業(株)品質保証部部長 高橋 良治 氏

#### ■入学前教育の実施

大学教育総合センターでは、入学前教育実施小委 員会を設置し、推薦・AO入試合格者を対象とした入学 前教育に全学体制で取り組んでいます。

本学の入学前教育の内容は、「読書レポートの作成」と、「e-Learningを利用した英語・数学等の自主学習」です。生徒は、各学部+センターから推薦された15冊の課題図書の中から1冊の本を選び、読書レポートを作成します。生徒には、提出したレポートに対して300字程度のコメントが返されます。

この入学前教育は、まだ内容・方法・体制について確立しておりません。毎年、実施しながら見直し、改善を加えている途中です。先生方のご協力をお願します。

#### 平成20年度 入学前教育レポート提出数

0 9 4 0 0 1 0 8 2 5 0 13	2 0 7 3
) 1 ) 8 2 5	0 7 3
0 8	7 3
2 5	3
) 13	
	3   1
7	0
2 6	1
1 15	5 0
3 16	3
1 0	0
7 6	0
3 3	10
2 0	0
1 2	0
6 91	30
0/6 070	100%
1	3 16 1 0 7 6 3 3 2 0

※()内はAO入試合格者によるもの

erudio10

# 教育評価·改善部門

### ■学生による授業アンケート

教育評価・改善部門では、前後期に開講されるすべての全学共通教育科目を対象として、学生による「授業アンケート」を実施しています。授業アンケートの結果は、個々の授業担当教員に返却する他、部門会議で議論した基準にしたがって「全学共通教育優秀授業科目」を

選出しています。

平成20年度前期の優秀授業科目は以下の通りです。 1月28日に、高塚理事をお迎えしての全学共通教育優 秀授業科目の表彰授与と優秀授業科目担当教員と理 事との懇談会を行いました。

#### 平成20年度前期 学生による授業アンケートに基づく全学共通教育優秀授業科目 一覧

#### ■人間と文化

0010	心の理解/適応の理解	早	坂	浩	志
8000	心の理解/適応の理解	山	П		浩
0009	心の理解/適応の理解	佐	藤	正	恵
0002	哲学の世界	開		龍	美

#### ■人間と社会

0050	対人関係の心理学	Ш	原	正戊
0033	憲法	宮	本	ともみ
0054	キャリアを考える	中	村	謙 -

#### ■人間と自然

0073 物質の世界

0069	生命のしくみ	木	藤	新一	一郎
■情報科		714	/IAK	7171	М
0118	情報基礎	福	永	良	浩
0110	情報基礎	Ŧī.	味	壮	平

吉澤正人

西 貴 裕

#### ■外国語科目(英語)

0116 情報基礎 0115 情報基礎

0327	英語コミュニケーション I(中級)	Sayers Arthur Lowell
------	-------------------	----------------------

0313	英語コミュニケーション	II	(上級)	Blair	Benjamin	Reed
------	-------------	----	------	-------	----------	------

0310 英語コミュニケーション I (中級) Townsend Simon Douglas Cater

0328 英語コミュニケーション I (初級) Blair Benjamin Reed

0348 英語コミュニケーションⅡ(上級) Sayers Arthur Lowell

0342 英語コミュニケーション I (上級) Sayers Arthur Lowell

0325 英語コミュニケーション I (中級) ASANO ROBERT KEN

0371 英語コミュニケーション I (中級) Blair Benjamin Reed

0316 英語コミュニケーションⅡ(初級) Mark de Boer

0372 英語コミュニケーション I (中級) Mark de Boer

0367 英語コミュニケーション I(上級) Townsend Simon Douglas Cater

0376 英語コミュニケーション I(初級) Hareyama James Franciscus

0365 英語コミュニケーション I (上級) Gavin Young

0309 英語コミュニケーション I(上級) Gavin Young

0315 英語コミュニケーション II (中級) Sayers Arthur Lowell

0374 英語コミュニケーション I(初級) Sayers Arthur Lowell

#### ■外国語科目 (英語以外)

0429	初級フランス語(入門)	中	里	まき	\$子
0472	上級日本語A	松	畄	洋	子
0425	初級フランス語(入門)	横	井	雅	明
0448	初級ロシア語(入門・発展)	長	野	俊	_
0440	初級フランス語(入門)	加	藤		隆
0455	初級中国語(入門)	中	安	貴	子
0405	初級ドイツ語(入門)	山	$\Box$	春	樹

#### ■健康・スポーツ

■健康・スポーツ				
01035 バドミントン	阿	部	令	奈
01022 健康ウォーク	上	濱	龍	也
01014 テニス	八	橋	徹	英
01016 体力トレーニング	佐々	木	優	次
01033 サッカー	大	賀	圭	造
01023 体力づくり	佐々	木	優	次





# 専門教育関係連絡調整部門

部門長 村上 祐

#### ■専門基礎科目の充実に向けて

- 1.「入門」科目に関する農学部・教育学部教員の協議本年度開催した科目別懇談会において話題となった「化学と生物の履修歴がない農学部学生を、教育学部の「入門」科目(高校で履修歴のない学生及びセンター試験で選択していない学生を対象に開講)へ受け入れる」ことについて、その可能性及び問題点を農学部・教育学部教員で協議し、以下のような結論になりました。
- \*今年度(2008年度)後期の「入門生物学」についてこの科目の受講を希望する農学部学生を、受け入れ上限数(5名)内で受け入れ、試行する(人数の調整は農学部が行う)。この試行で、農学部学生を受け入れた影響・効果を見ることとする。
- \*来年度(2009年度)前期「入門化学」についてこの科目の受講を希望する農学部学生を、受け入れ上限数(10名)内で受け入れる(調整は農学部が行う)。開講曜日・時間帯は、全学共通教育および両学部の専門教育の時間割を勘案して、金曜日の9・10校時とする。
- \*来年度(2009年度)後期 「入門生物学」について 今年度後期に試行した結果、支障なく行われてい ることから、来年度後期も同様に続ける。

#### 2.今後の専門基礎科目について

農学部・工学部の専門基礎科目(数学・物理学・化学・生物学)の担当者および講義内容については、これまで農・工と人文社会科学部の担当者間で調整を行ってきました。しかし、今年度前期に行われた科目別懇談会及びその後の各担当者間による協議等の結果から、平成22年度以降の専門基礎科目の開講および担当者については、本部門及び学部の教務委員会等との調整も必要であるという結論になり、今後検討を始めることになりました。その基礎的データとして、人文社会科学部教員の科目担当数等を集約しました。

#### ■基礎ゼミナールの充実に向けて

#### 1.平成20年度基礎ゼミナールの検証

各学部の委員から、平成20年度基礎ゼミナールの 検証結果について報告があり、実施体制および成績 評価方法について意見交換を行いました。その結果、 引き続き、基礎ゼミの趣旨を徹底しながら、到達目標 の設定及び評価基準などについて検証し、改善して 行くこととしました。

- 2.平成21年度基礎ゼミナールについて
  - 1)副読本、教員向けマニュアルの作成
- \*副読本について

新入生に読んでもらうことを目的として、レポートの 書き方やノートの取り方などを記載した、学生が読み やすいものに改訂しました。

\*教員向けマニュアルについて

別途、担当者(教員)向けのパンフレット「レポート 初心者の指導法(基礎ゼミナール授業のための提 案とヒント集)」を作成しました。基礎ゼミを実施するう えでの参考としてもらうことを目的として、授業の進め 方の例示(指導案)や実施する上での参考文献等 を記載しています。

2) ISO14001について

環境マネジメント推進室から、ISO14001に関する DVDを作成したので、基礎ゼミナールで学生に見せ て欲しいとの依頼がありました。

基礎ゼミ担当者には、できるだけこのDVDを利用 するよう依頼し、また、全教員に配付して、環境教育 に関連する授業で利用していただきたい旨を依頼す こととしました。

# 学生生活支援部門

部門長 小笠原 義文

### ■課外活動施設の老朽化にともなう整備等の検討について

学生が自主的に行う課外活動を、大学における正課外活動と位置づけて、本学においても施設整備や活動支援に努めていますが、施設の老朽化に整備が追いついていない状況です。

本部門では、その中でも、老朽化等による耐震不足 や安全管理の不安があり可及的速やかな対応が必要 と判断した、第一体育館脇プレハブ倉庫・馬房・野球場 防球ネットについて、本学財務委員会へ要望書を提出 しました。

## ■学生指導担当職員研修会及び課外活動サークル リーダーシップセミナーの実施について

標記研修会及びセミナーは、国立岩手山青少年交流の家を会場に下記の内容で実施しました。当日は、 両参加者による学長との懇談も行われました。

#### 【学生指導担当職員研修会】

日 程:平成20年11月22日(土)

討議内容:「発達障害学生の理解と対応について」 ワークショップ: 「休・退学を減らすために |

学生の諸問題について、各学部の学生指導担当 教員及び学務部職員が一堂に会し、研修と意見交 換の場を持つことにより、学生の指導体制をより充 実させることを目的として実施しました。

#### 【課外活動サークルリーダーシップセミナー】

日 程:平成20年11月22日(土)~23日(日) ワークショップ: 「サークル内にある問題と解決策について」

各サークルの活動の活性化を図るために、副学 長・顧問教員等と意見交換を行うとともに、サークル 間の親睦と交流を深め健全なサークルの育成を目 的として実施しました。

#### ■学生議会からの要望

後期学生議会通常議会では、前期の要望にもあった構内での喫煙・禁煙に関する内容については、今後も喫煙マナーと禁煙の呼びかけを行っていくことを確認しました。多額の費用を伴うものについては対応が難しい要望もあり、学生の理解が得られるように説明を行っていきたいと思います。

#### ■平成21年度Let'sびぎんプロジェクトの募集について

平成21年度も引き続き、学生が共同で行う独創的なプロジェクトを支援する「Let'sびぎんプロジェクト」を募集します。継続プロジェクトの内容が昨年度と同じにならないようにするなどレベルアップを図ることとし、書類審査及び面接のうえ決定します。応募締切は、平成21年5月8日(金)です。

#### ■平成20年度学長と学生との懇談会について

本年度は、下記のとおり計3回開催しました。

- ○第1回:平成20年5月14日(水) 『第17回ガンチョンタイム』において、テーマを 「岩手大学長と語ろう」として開催。
- ○第2回:平成20年11月22日(土) 『学生指導担当職員研修会及び課外活動サーク ルリーダーシップセミナー』において、テーマを「サ ークル活動への支援について」及び「学生の授業 態度について」として開催。
- ○第3回:平成21年3月19日(木) 学部4年次生4名及び大学院修了年次生1名により、テーマを「岩手大学に入学して良かったこと」と して開催。

# キャリア支援部門

#### キャリア・アドバイザー 中村 謙一

### ■主な活動報告

- 1.キャリア教育科目「キャリアを考える」 実施2年目の後期に入り認知度も上昇。履修生は前 期300名、後期は180名で年間履修登録は倍増。
- 2.企業訪問(10月~3月実施) 従来の東北中心から大阪、名古屋、東海、京葉地区 等の首都圏の代表企業も加えて情報の質と量を向 上させた。
- 3.合同企業説明会 2月開催では世界経済の急激な悪化による参加企業 の減少が心配されたが大きな落ち込みはなく、岩手 大学と卒業生への安定した評価を感じた。今回から 地元企業の参加にも配慮した。
- 4.キャリアフォーラムの開催 ジョブカフェいわてと岩手県産学官連携協議会主催 によるキャリアフォーラムを2月に開催。
- 5.キャリア相談 年度前半は08年度学生の好調な就職環境に支え られ相談件数は少なめに推移した。年度後半は09 年度学生の危機感が高まり相談件数が上昇中。
- 6.学部就職委員会と連携した各種ガイダンスおよび 就職支援の実施
- 7.企業の内定取り消しへの迅速な対応 関係省庁および学部との連携で学生へのきめ細か い支援を行っている。

#### ■企業訪問の状況と概要

1.企業訪問の目的と効果

目的・ねらい:産学相互理解と関係機関利用技術向 上のための調査

- ①就職·採用環境の調査 (企業ニーズの把握、企業動向の把握等)
- ②岩手大学のPR(教育研究学生)
- ③キャリア支援、就職支援、教育力の向上対策
- 2.企業訪問から推察されること

世界経済の急落で企業の姿勢も変化(迷い)

①中長期成長戦略としての求める人材:質(コア人材)×量(企業の実力に見合った人員)

- ②短期的業績維持のため採用枠が決められない (経営判断):高い採用意欲×景気動向(底辺) の見極め
- 3.岩手大学生の傾向や印象 地味、環境に慣れると力を発揮、まじめでおとなしい (ガツガツしていない) しかし落ち着いた姿勢は首都圏で好印象 (就職活動慣れしていない等)
- 4.企業訪問から見える企業の求める人材
  - ・筆記試験以外では特にコミュニケーション能力
  - ①相手の話を聞く力、理解する力、引き出す力
  - ・そのための大学生活での学び(広義の)、社会常識(新聞を読む等)
  - ②自分の事を自分の気持ちと言葉で表現する力
  - ・ 実体験をもとにして(学生時代をどう過ごしたか等)
  - ・話しの上手下手ではなく内容や姿勢
  - ③学校での自主的な「学び」と入社後の「学び」 「成長 | の可能性
  - ・学校での学びと学生生活での経験や体験
  - ・コミュニケーション能力は人とのふれ合いから
  - ・新聞を読む(社会常識 文章力 言葉遣い等)
  - ・3.5.10年後の伸びしろ
  - ④志望動機は自分の人生と企業の方向との合致
  - ⑤景気の急変による採用枠(数)の変化が予想され るが質の重視は変わらず

一つの企業が同じタイプの人材だけを求めている わけではない、また企業ごとに求める人材の比重も異 なる、組織は多様な人材の集まりで構成され刺激し合 い補完し合い活性化して成長していく、自分のタイプ を知り、その強みを活かして組織で活躍することが 重要。

# 現代GP関連

# 現代GP(学びの銀河プロジェクト)

GP研究員 三木 敦朗/委員長 玉 真之介

#### ■県内でのESD共同行動を目指して

岩手県幼小中高大専ESDサミット(2008年7月5日)の時に設立された「岩手県幼小中高大専ESD円卓会議」は、県内の幼稚園から大学・専門学校までの各教育機関が、校種・公私立の違いをこえてESD(持続共生教育)の可能性を追求するものです。2009年1月9日には、第1回ESD円卓会議が開催され、6月に県下で共同行動をおこなうことが合意されました。

それが、「テレビ・ゲーム・パソコンを消して読書する 共同行動」です。5月30日(金)~6月5日(金)の1週間、

各人が普段 ならつけてい るテレビ・ゲー ム・パソコンを 消して読書す るというもので す。環境配慮



行動を読書とリンクする取組です。

目下、推薦図書(環境関連本)の選定をおこなっています。ぜひ、良書の推薦をお願いいたします。

%http://esd.iwate-u.ac.jp/entaku/から入力できます。

#### ■企業と連携するESD科目

今年度後期には、企業の実践例からESD学ぶ「地元企業に学ぶESD」が開講しました(担当:山崎憲治先生)。様々な県内企業の社長・担当者から、持続可能な発展にかける情熱と試行錯誤の講義をうけ、毎回盛んな議論がおこなわれました。学生には、「身近な地域社会にも、仕事を通じて未来を切り拓こうとする人たちがいること」に知ってもらい、社会に出た後にどのような役割を果たせるのか考えてもらいました。

この科目のような、学外の企業や行政、NPOと連携した教養科目が増えることによって、専門教育科目に比べると現実社会とのつながり希薄と言われてきた全学共通教育のイメージが変わっていくことを期待しています。

# 現代GP「全学的知財教育」

委員長 佐藤 祐介

#### ■独自教材の開発

平成20年度後期には、人文社会科学部法学コース学生向けの法律学特講C(商標法)を行い、そのなかで商標を専門にしている弁理士による実社会での問題や実務についての講義を実施し、職業としての弁護士についても関心を持ってもらった。また、工・農学部生向けの知的財産権概論では独自に作ったビデオ教材を

用いた。このビデオ教材は、筆者を含む日本知的財産仲裁センター東北支所の弁護士たちの自作・自演の摸擬調停劇をビデオ化したもので、中小企業の特許紛争がよ



く理解できるようになっている。これをコミックに翻案した「コミック版特許紛争」の準備も進めている。ほかに情報基礎の1コマをお借りして著作権法の講義を行った。

#### ■外部評価助言委員会

外部評価・助言のための知財教育助言委員会(12月21日)では、白熱した、本音の議論が展開され、この現代GPの総括段階での重要な成果を得た。これについては、後ほど冊子化される予定であり、本学あるいは他大学で知財教育に実際に携わっている方々のお役に立てるものと期待している。

#### ■知財教育フォーラム

3月13日には知財教育フォーラムを開催し、現代GP期間中に得られた有形・無形の成果を周辺大学はもちろん全国に発信する予定であり、それを契機としてさらに議論が深まって、知財教育の全国的な底上げができれば、との大望も抱いている。現代GPは20年度後期をもって終了するが、岩手大学の全学的知財教育は終了するわけではない。現代GP期間中の成果を生かして知財教育を引き続き行うなかで、その教育の質をより高めるための不断の努力が望まれる。

# 全学共通教育授業実施報告

# 「都市の自然再生プランニング | (高年次課題科目)

#### 橋本 良二(農学部専仟担当)

上田キャンパスの東側はすぐ北山丘陵で森林地帯 が、西側は北上川、雫石川を経てはるか遠くまで田園 地帯が広がっています。"川と森と田園が融合した街づ くりを学生たちといっしょにやってみよう"、担当教員のこ うした思いが本授業の出発点でした。教室での授業だ けでは、窓の外の向こうで起きている現実はなかなか学 生に伝わりません。1年がかりで教科書をつくり実習フィ ールドを整備して、本年度前期に開講しました。

大学での基礎・教養教育をほぼ終え、専門教育でも だいたい輪郭をつかんだ学生に対して、やがて取り組 む卒業研究にはずみをつけてほしいと意図していたこ とから、授業対象は3年生になります。18年度入学の学 生は、こうした高年次課題科目のことなどまったく知りま せん。受講生を集めるには、担当教員による学生への 呼びかけに頼らざるをえず、履修手続きした学生は農 学部、工学部を中心に20名ほどでした。

授業は4学部の教員10名が担当し、講義は4章構成 で、1章が都市の環境保全、2章が都市の緑と生きもの たち、3章が都市のデザイン、4章が都市の環境活動で した。講義終了後は実習で、実習フィールドは八幡平か ら、四十四田ダム湖、高松の池、西部田園地帯、そして 市街地に及びました。授業の最後は、実習体験をもとに 意見交換会をおこないました。学生たちは、教室の外で 起きている現実問題を肌で感じたようで、授業アンケー









院生から水質検査法を教わる

# |「くらしと科学技術 | (科学技術分科会)

#### 水野 雅裕(丁学部専仟担当)

我々の暮らしの中で科学技術がどのように役立って いるかを広く学生に理解してもらい、その重要性を認識 してもらうことを目的として、科学技術分科会では「くらし と科学技術 | という新しい授業科目を平成20年度に開 講しました。

本授業科目は、工学部の11名の教員(機械工学科 8名、建設環境工学科の3名)に農学部の教員1名が加 わり、オムニバス形式で実施しました。履修申告者は、 農学部が22人、工学部が118人、教育学部が5人、人文 社会科学部が15人の合計160人で、教室のテクノホー ルは学生で一杯になりました。授業内容は、ものづくり、 制御技術、エネルギー、流体などの機械技術と我々の 生活との関わり、さらに橋梁などの建造物の安全性を 確保するための建設技術などが中心で、各回の授業 に下記のような小タイトルをつけました。

第1回 機械を作る機械

第2回 生産システムで使われる最適化手法:LP3

第3回 制御 一ハイテク製品を動かす知恵一

第4回 ものが壊れることに関する科学

第5回 くらしの中の燃焼技術

第6回 自動車用エンジンと燃料の科学技術

第7回 暮らしの中の伝熱技術

ー複層ガラスと省エネルギーー

第8回 くらしの中の流体工学

第9回 農業における機械技術の今昔

第10回 地震に強い構造物とは

第11回 地震時の防災について

第12回 岩手県橋梁の長寿命化への取り組み

第13回 古い鋼橋の劣化診断について

第14回 コンクリート橋の劣化診断について

第15回 コンクリート橋の長寿命化の方法

第2回、第3回、第8回、10回の授業内容を深く理解し てもらうためには、受講者側に数学や物理の基礎知識 が求められます。しかし、今回の授業では、文系の学生 にも理解できるよう、数式を極力使わずに、使うとしても できるだけ簡単な数式で理論や現象を説明するように 努めました。それでも、難しいと感じた学生は多かったよ うです。成績の集計結果は、優62名、良63名、可16名、 不可19名でした。

# 全学共通教育授業実施報告

# 環境教育科目の講義のやり方を改め、実施しました

## 「環境」分科会代表 河合 成直(農学部専任担当)

環境科目は本学の重要な科目であると位置づけられています。今年度は、学部ごとで行った以前の体制を改め、環境分科会の教員で10科目を実施しました。今年の実施状況について先生方の声、学生の声などの情報を含め報告します。

今年は、各講義担当者が、学生が問題意識を持ちやすいように理念を「生活」「都市」「水」「動物」「森林」などに決めて行いました。以下に、アンケートによる先生方の声をまとめました。

#### [学生の受講態度]

例年とあまり変わらないが、比較的まじめに聞いている。しかし、学生の個人差が大きく、寝ている学生がいることも事実である。

#### [レスポンスカード・課題]

4学部の学生がいるので理解度に差があるが、まじめに理解しようとしている。文章の内容や漢字を書く能力に個人差がある。語彙力、表現力の個人差が著しい。本当に身につけて欲しい知識があまり学生の頭に残っていない。

#### [試験から見た学生の理解度]

学生間の個人差が大きい。基本的に理解はしているが、知識を関連付けて体系的に整理する能力に欠けている学生が多い。理解力よりは表現力が不足しているのではないか、また、四則計算が危うい学生がいる。

#### [講義の理念は学生に伝えられたか]

基本的内容はおおむね伝わったと思われる。 しかし、正確な知識が伝わったかは疑問である。 学生の中に全学共通教育科目は、聞き流しておけ ばよいという姿勢があるのではないか。

以上のご意見の中に、現在の本学の学生の特性が良く現れています。「本学の学生はとりあえず、まじめなものが多い。しかし、理解の深さが少し足りない。また、知識を連携させる力が足りない。」というということでしょうか。その背景には、基礎学力としての日本語力の不足、母国語による聞き取り能力と論理力の不足があるよ

うに思われます。そして、一部の学生にやる気を出させる方策の必要性も指摘できます。

私は、答案を見て、講義の話とテレビや新聞、高校で聞いた話などを、内容を理解せず、不適切に結合して記述する学生がいると感じました。その原因が選択式で解答するセンター試験にあるとは申しませんが、入試において記述式の問題を重視するなどにより、学生の母国語力を訓練する必要性を感じます。そうしないと学生が社会に出た時が心配です。

また、学部による差も指摘されています。もちろん、基 礎学力に質的相違があるので、答案内容が質的に違う ことは理解できます。私は、文科系といわれる人文社会 科学、教育学部の学生のほうが、文章表現が豊かであ ると感じました。もちろん、表現力豊かな学生の文章の 内容が全て正しいわけではありません。熱意や気持ち を表現する力の上に正確な科学の知識を加えることが 肝要です。しかし、一部の学生の中に、化学式を黒板 に書いたとたんに、「化学式が出てがっかりしました。講 義のやり方に気をつけてください。」とレスポンスカード に書く学生がいることを残念に思いました。彼らが中学 校で元素記号を勉強していないはずは無いのですが、 彼らの考え方の中に「この科目は知らなくても良い。」と 選別する受験教育の弊害が有るように感じました。同 様に、理科系学生においても経済や法律に関わる内容 を敬遠している例もあるように思われました。

環境問題では、理系、文系の学問領域の区別無く理解し、総合的に考える力が求められます。それ故に、4学部の学生が同じ講義を履修し、異なる学部の教員が1つの講義をすることに大きな意味があると思います。また、この講義では、学生が所属する学部で聞くことの無い分野の内容を上手に説明する必要があります。学生からは、「知らない分野の話が新鮮であった。」との声があります。教員は他学部の学生にも、よりわかりやすく説明する努力が求められます。それにより、勉強になるのは学生だけでなく教員でもあると思います。今後も、学生をやる気にさせる、1年後期の特色ある講義として、さらに改善できればと思います。

# 放送大学プロジェクト&コンソーシアム

教育評価·改善部門長後藤尚人

### ■平成20年度: 実施報告

平成20年度のプロジェクトにおいて、以下の通り開講した24科目に計110名が受講しました。具体的には、以下の24科目になります(外国語15科目38名+教養5科目30名+専門3科目28名+1科目のコンテンツ利用13名)。

\*外国語科目

平成19年度入学生(2年次)を対象に、再履修として各言語4単位までを個人視聴により実施。

【前期32名、後期6名】

\*教養科目(人間と文化)

「人類の歴史·地球の現在('07) | (TV)

前期:水9·10【14名】

\*教養科目(人間と社会)

「転換期の教師('07) | (R)

「「現代の諸問題(転換期の教師) |に読み替え]

前期:月1.2【4名】

\*教養科目(人間と社会)

「社会と知的財産('08)(TV)

前期:水9·10【5名】

\*教養科目(人間と社会)

「著作権法概論('07)」(R)

後期:水9·10【1名】

\*教養科目(高年次課題)

「問題発見と解決の技法('08)」(TV)

前期: 木3·4【7名】

\*教養科目(高年次課題)

「大学と社会('08)」(TV)

前期集中【13名:コンテンツ利用】

\*専門科目(教育学部生涯教育課程)

「住まい学入門('07) | (TV)

[「生活空間論」に読み替え]

前期:水3·4【4名】

\*専門科目

(人文社会科学部国際文化課程文化システムコース)

「芸術·文化·社会('06)」(TV)

「「文化記号論 I |に読み替え]

前期:水7.8【23名】

\*専門科目

(人文社会科学部国際文化課程文化システムコース)

「情報と社会('06) | (TV)

「「文化記号論Ⅱ | に読み替え]

後期:水7·8【1名】



### いわて高等教育コンソーシアムの始動

#### プロジェクト取組担当者 後藤 尚人

平成20年度の文部科学省「戦略的大学連携支援事業」の総合的連携型(広域)区分で、岩手大学が代表校となり申請した「いわて高等教育コンソーシアムにおける地域の中核を担う人材育成と知の拠点形成の推進」プロジェクトが採択され、これを機にいわて5大学学長会議はコンソーシアムへと脱皮し、さらに連繋を進めることになりました。

このプロジェクトは、5大学で構成されるコンソーシアム内での3つの取組(教育研究環境の基盤整備、教育力の向上、知の拠点形成)に加えて、コンソーシアムと高大連携の取組(大学進学率の向上)、コンソーシアムと地域貢献の取組(地域の活性化)という計5つの取組から成り、それぞれの取組が複数の事業を実施し、全体では20事業が展開されることになります。

文部科学省からの補助金の支給期間は平成20年度から3年間ですが、プロジェクト申請時に今後の10年間を展望した「大学間連携戦略」を立てており、平成20年から3年間を「イーハトーブキャンパスの設立と整備」の期間、平成23年から3年間を「教育力向上と知の拠点形成」実質化の期間、平成26年から4年間を「イーハトーブ大学の始動」期間として、コンソーシアムが提供する地域リーダー育成プログラムを終了した学生には5大学の学長名によるイーハトーブ大学《卒業証書》を授与する予定です。

平成21年1月27日には「コンソーシアム設立記念シンポジウム」をアイーナで開催し、各事業も動き出しました。これから皆さんのご協力を仰ぐことになりますので、よろしくお願いします。

**— 16 —** 

# アイアシスタント

教育評価·改善部門 江本 理恵

#### ■アイアシスタントによる履修申告

平成21年度前期より、全学生(新入生を含)がアイアシスタントから履修申告を行うことになりました。平成20年度後期は、履修申告のみをアイアシスタントから行い、確認表等は印刷したものを配布していたのですが、これをアイアシスタントに一本化します。現時点では、履修申告期間を2週間(4月10日~4月23日)設定し、履修申告期間の前半を「履修申告期間」、後半を「確認・修正期間」とすることを予定しています。後半の「確認・修正期間」には、毎日もしくは2日に1回、アイアシスタント上からエラーチェックした結果を返しますので、学生はそれを確認して、必要に応じて履修申告を修正することになります。

学生に対しては、大学教育総合センターから、パンフレットの配布、ちらしの配布、説明会の実施等を行いますが、それでも全学生となるとなかなか浸透させることはできません。特に、新入生については、様々な形での

サポートをお願いすることになりますが、よろしくご協力 をお願いします。

また、このようなスケジュールなので、履修者名簿が 確定するのは4月の4週目以降になります。

履修申告期間そのものは2週間ありますが、確認・修 正期間も含まれているので、学生にはできる限り早く履 修申告をするようにとご指導ください。

### ■シラバス作成の手引き 平成21年度版

「シラバス作成の手引き 平成21年 度版」を作成しました。今回は、各項 目の解説だけでなく、前半4ページに 「シラバス作成におけるポイント」をまと めてみました。ぜひ、ご活用ください。







#### 齊藤 彰一(人文社会科学部専任担当)

私は、全学共通科目では「経済のしくみ」(約150名)と、専門科目「政治経済学」(約50名)を主として教えています。アイアシスタントの活用を本格的に始めたのは、今年度の後期からでした。専門科目の学生諸君の質問に、ぜんぶ答えようと思ったのがきっかけです。

前期には、アイアシスタントの使い方がよく分からなかったので、専門科目50名の学生さんに回答を書いて印刷して、封筒に入れ、名前を書いて小箱にいれ、そこから自分への回答を取らせるようにしました。しかし、この方法は、印刷・封筒詰め、宛名書き、と膨大な時間と手間がかかります。そこで思いついたのが、アイアシスタントの「お喜楽板」の活用でした。お喜楽板は、汎用性が高く、質問への回答も書き込めるばかりか、掲示板の役割も果たしてくれます。レポートを課す場合もそこに書き込みます。お喜楽板に、連絡事項がすべて書いてあると学生が知っていれば、学生はそれだけを見ればよいので、彼らにとっても大変重宝です。授業で評判を聞いたところ、お喜楽板での諸連絡は大変ありがたかったとの声が多数を占めました。

書き込みは、後期の専門・共通科目あわせて、500~600通ほどでしょうか?これが学生諸君の知的啓発に力を発揮したこと、 我ながら言いすぎではないと思っています。

ただ、お喜楽板の場合、投稿者の名前が表示されてしまうので、目立つことを嫌う学生諸君が自ら投稿することは、ほとんどありません。もう少し匿名性を保証すれば、学生側からの投稿も増えると思います。

アイアシスタントには様々な便利な機能があり、そのことで、教育活動が以前より広く深く展開されうることは確かです。しかし、大学の目的とは、知識の伝達だけではなく、薫陶を授けることでもあります。アイアシスタントが学生と教員の心の通じ合いの回路とならんことを期待しています。





# 委員会及部門会議名簿

# 大学教育総合センター運営委員会委員名簿

(平成20年6月5日)

	氏 名	担 当 部 局 等
センター長	玉 真之介	理 事(教育·学生担当)
副センター長	佐 藤 瀏	工学部
入試部門長	玉 真之介	理 事(教育·学生担当)
全学共通教育企画·実施部門長	佐藤瀏	工学部
教育評価·改善部門長	後 藤 尚 人	人文社会科学部
専門教育関係連絡調整部門長	村 上 祐	教育学部
学生生活支援部門長	小笠原 義 文	教育学部
キャリア支援部門長	三 輪 式	農学部
	堀毛一也	人文社会科学部
	菅 原 正 和	教育学部
副学部長又は評議員	藤代博之	工学部
	平 秀晴	農学部
	田口典男	人文社会科学部
教務関係委員長	押切源一	教育学部
	小 川 智	工学部
	橋 爪 一 善	農学部
学務部長	松井照雄	学務部

# 大学教育総合センター会議委員名簿

(平成20年4月1日)

× 13 3×		<b>一 ロル                                   </b>
	氏 名	担 当 部 局 等
センター長	玉 真之介	理事(教育·学生担当)
副センター長	佐 藤 瀏	工学部
入試部門長	玉 真之介	理事(教育·学生担当)
全学共通教育企画·実施部門長	佐藤瀏	工学部
教育評価·改善部門長	後 藤 尚 人	人文社会科学部
専門教育関係連絡調整部門長	村上祐	教育学部
学生生活支援部門長	小笠原 義 文	教育学部
キャリア支援部門長	三 輪 弌	農学部
	山 崎 憲 治	大学教育総合センター
	永 野 拓 矢	大学教育総合センター
センター専任教員	江 本 理 恵	大学教育総合センター
	福永良浩	大学教育総合センター
学務部長	松井照雄	学務部

erudio10

### ■入試部門会議委員名簿

#### (平成20年4月1日)

					(十成20千4万1日)
	氏		名		担当部局等
部門長	玉	玉		之介	大学教育総合センター長
専任教員	永	野	拓	矢	大学教育総合センター
	古	Л		務	人文社会科学部
兼務教員	辻	野	哲	司	教育学部
<b>水切</b> 状员	山	П		明	工学部
	古	濱	和	久	農学部
	北	爪	英	_	人文社会科学部
	西	崎		滋	人文社会科学部
	遠	藤	匡	俊	教育学部
各学部入試委員会	内	山	三	郎	教育学部
(正·副委員長)	菅	野	良	弘	工学部
	大	石	好	行	工学部
	長	澤	孝	志	農学部
	原	澤		亮	農学部
入試課長	加	藤		博	学務部

#### ■全学共通教育企画·実施部門会議委員名簿 (平成20年4月1日)

■王子共通教育正画 * 关心	마니 기주	我女只口	<del>"</del> (平成20年4月1日)
	氏	名	担当部局等
部門長	佐藤	瀏	工学部
専任教員	山崎	憲 治	大学教育総合センター
	海老澤	君 夫	外国語分科会
	小笠原	義 文	健康・スポーツ分科会
	鈴木	正 幸	情報基礎分科会
	小 林	睦	思想と文化分科会
	松岡	和 生	心と表象分科会
兼務教員	丸山	仁	公共社会分科会
	岡崎	正道	現代の諸問題分科会
	黒 田	榮 喜	生物の世界分科会
	西崎	滋	自然と数理の世界分科会
	笠 場	孝一	科学技術分科会
	河合	成 直	環境分科会
	宮本	ともみ	人文社会科学部
各学部教務委員会	菅 野	文 夫	教育学部
<b>百丁叩纵肋女只</b> 五	笠 場	孝一	工学部
	岡田	秀 二	農学部
学務課長	今 野	悟	学務部

#### ■教育評価・改善部門会議委員名簿

#### (平成20年4月1日)

■教育計画 以吉即 五成	(十成20年4月1日)				
	氏		名		担当部局等
部門長	後	藤	尚	人	人文社会科学部
全学共通教育企画·実施部門長	佐	藤		瀏	工学部
専任教員	江	本	理	恵	大学教育総合センター
4日秋月	福	永	良	浩	大学教育総合センター
	砂	Щ		稔	人文社会科学部
	西	牧	正	義	人文社会科学部
	名記	占屋	恒	彦	教育学部
兼務教員	Л	П	明	子	教育学部
(学部選出委員)	八	代		仁	工学部
	鈴	木	正	幸	工学部
	立	石	貴	浩	農学部
		本	良	$\stackrel{=}{=}$	農学部
学務課長	今	野		悟	学務部

### ■専門教育関係連絡調整部門会議委員名簿 (平成20年6月5日)

	氏		名		担当部局等	
部門長	村	上		祐	教育学部	
専任教員	山	崎	憲	治	大学教育総合センター	
	Щ	内	茂	雄	人文社会科学部	
兼務教員	犬	塚	博	彦	教育学部	
(各学部教務委員会選出教員)	小	Щ		智	工学部	
	河	合	成	直	農学部	
学務課長	今	野		悟	学務部	

### ■学生生活支援部門会議委員名簿

#### (平成20年4月1日)

	氏	名	担当部局等
部門長	小笠原	義 文	大学教育総合センター長
	川本	榮三郎	人文社会科学部
兼務教員	清 水	茂 幸	教育学部
(各学部学生委員会選出教員)	伊 藤	歩	工学部
	築城	幹 典	農学部
学部選出教員	能 登	恵一	人文社会科学部
	菊 地	悟	教育学部
	一ノ瀬	充 行	工学部
	谷 口	和 之	農学部
学生支援課長	白 崎	隆典	学務部

#### ■キャリア支援部門会議委員名簿

#### (平成20年6月5日)

	氏	名	担当部局等
部門長	三 輪	走	農学部
	丸山	仁	人文社会科学部
兼務教員	大河原	清	教育学部
(各学部就職委員会選出教員)	小 川	智	工学部
	木 村	伸 男	農学部
キャリア支援課長	松井	照 雄	学務部長(兼)



## |編|集|後|記|

この冬は妙に暖かかったり、急に冷え込んだり、 の不思議な気候でしたね。体調を崩された方も 多かったのではないでしょうか?

さて、あと1週間もすると、構内が学生であふれかえります。 新学期のはじまりですね。



工房うさぎごや

# erudio 10

[2009年3月30日発行]



# ▶国立大学法人 岩手大学 大学教育総合センター

Iwate University: University Education Center 〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18-34

【学生生活支援部門(学生支援課)】 tel.019-621-6058 【就職支援部門(就職支援課)】 tel.019-621-6059

### 【部門共通】fax.019-621-6928

電子メール uec@iwate-u.ac.jp Webサイト http://uec.iwate-u.ac.jp/

